

## 背景と論点

多人数授業の定義は研究者や大学によって異なりますが、100名の学生が一つの基準とされています。国内外の研究において、クラス規模が授業に影響を与えるという研究結果がありますが、多人数授業であっても学習成果や満足度の高い授業は見られます。

多人数授業において教育効果が低くなる要因としては、集団による匿名性が授業に対する学生の帰属意識や責任感を低下させること、個々の学生への教員の対応が少なくなること、可能な教授法に限られること、プリントの配布や出席の確認などの授業運営に要する時間が増えることなどが指摘されています。

一方、多人数授業に対して教員と学生の捉え方は違うようです。教員は多人数授業を好まない傾向がありますが、学生は大学ならではの学習形態と捉える側面もあり、教員ほど不満を抱いていないようです。

## 実践の手法

### 1. 学生を大勢の中の無名の一人にしない

- ・ 学生を一個人として見ようとしていることを示す
- ・ 学生の顔を覚え、教室の外でもあいさつする
- ・ 学生を名前で呼ぶようにする
- ・ 学生が互いに知り合う活動を取り入れる
- ・ 授業の後に教室にしばらく残り、個別の質問に対応する
- ・ オフィスアワーを設け、授業時間外にも質疑応答に対応する
- ・ 初回の授業に学生の授業への期待、出身高校、趣味などを記したカードを提出させる
- ・ 学生に自分のメールアドレスを公開し、メールによる質問を受けつける

### 2. 教室を大きく使う

- ・ 教卓の後ろではなく前に立つ
- ・ 普段よりジェスチャーを大きくする
- ・ 板書やスライドの文字の大きさを教室の後方から確認する
- ・ 教室の中を歩きながら話す
- ・ マイクを使うときには、いつもよりゆっくり話す
- ・ コードレスのマイクやスライドを送るポインターを使う
- ・ 前方座席の学生ばかりでなく、広く学生から発言を求める
- ・ 発言する学生の声が大きくなるように、少し距離をとって対話する

### 3. 急に始めず、急に終わらない

- ・ 導入の時間とまとめの時間を授業の中に入れる
- ・ 授業の初めに、今日の授業で身につけてほしい学習目標を知らせる
- ・ 黒板に今日の授業で扱う内容の全体像を先に示す
- ・ 新しいテーマに入る際には、興味や関心を喚起する
- ・ まとめ時間では、この日の重要な内容をもう一度確認しながら伝える
- ・ 小テストやコメントペーパーを使って学習成果を確認する
- ・ 次回の授業時間までの課題を丁寧に説明する

## 4. 授業が単調にならないようにする

- ・授業をいくつかのパートに分けて構成する
- ・スライドや動画など視覚教材を使う
- ・教壇でできる演示実験を行う
- ・ペア学習やグループ学習を取り入れる
- ・フィッシュボウル（5から10名で議論させ、他の学生は聞き役）を取り入れる
- ・ディベートやロールプレイを取り入れる
- ・クリッカー（学生がリモコンを使って回答する機器）を使って、小テストやアンケートを実施する
- ・ゲストスピーカーを呼ぶ

## 5. 学生の参加度を少しずつ高める

- ・「賛成の人は手を挙げて」などの簡単な質問から始める
- ・考える時間を与えてから発言させる
- ・質問や感想を書かせた後に発言させる
- ・学生が質問や発言をしたら、まずそのこと自体をほめる
- ・学生の発言を待つときは、教員自身が沈黙に負けてすぐに話し始めないようにする
- ・「2人で議論する」から「4人で議論する」へとといった段階を踏む

## 6. 多人数に適した評価を行う

- ・配布、回収、採点に要する時間を考えて課題やテストは慎重につくる
- ・多肢選択方式やマークシート方式の試験が学習目標に適しているかどうか検討する
- ・学生の学習状況や出席の確認のためにミニットペーパーを利用する
- ・学生間でレポートを評価させる
- ・代表的な答案に対して授業の中でコメントする
- ・eラーニングのテスト機能やレポート提出機能を利用する

## 7. 効率的に運営する

- ・最初の授業でシラバスと口頭で授業を使って方針を伝える
- ・レポートの締切と返却日、授業で守ってほしいルールなどの大事な内容はシラバスなど紙でも伝える
- ・人数に応じて「後ろ3列は座らないように」といった指示を与える
- ・教材をまとめたコースパケットを初回の授業で配布する
- ・座席指定にする
- ・学科別や学籍番号別などでレポートの回収先を分けることで、レポートの整理を容易にする
- ・レポートを返却する際に、「よくできました」などと書かれたハンコを使う
- ・メーリングリストをつくり、一度に受講生全員に連絡できるようにする
- ・メールでの質問を受け付け、適切な内容であれば全員に返信する
- ・授業運営を手伝ってくれるサポーターを受講生から募集する

参考資料：中井俊樹「クラス規模は授業にどのような影響を与えるのか」『名古屋高等教育研究』第6号、2006年、pp.5-19。

作成者：中井俊樹（名古屋大学高等教育研究センター）

作成日：2011年7月29日

URL：http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/guide/